

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化振興課

施設の名称 静岡音楽館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団														
1 履行状況															
<p>(1) 目標達成</p> <p>ア 施設利用率</p> <p>目標値 84% (ホール、講堂、リハーサル室の平均)</p> <p>実績値 77.8% (前年度76.2%)</p> <p>達成率 92.6% (前年度比102.1%)</p> <p>【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値78.9%、達成率93.9%</p> <p>イ 公演等事業の定員(有効座席数)に対する入場者数の割合</p> <p>目標値 70%</p> <p>実績値 70.1% (前年度64.7%)</p> <p>達成率 100.1% (前年度比108.3%)</p> <p>【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値67.7%、達成率96.7%</p> <p>ウ 地元音楽家の人材活用に関する事業</p> <p>目標値 年間10回以上</p> <p>実績値 18回 (前年度12回)</p> <p>達成率 180% (前年度比150%)</p> <p>【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値7回、達成率70%</p> <p>(2) 施設利用状況</p> <p>ア 稼働率</p> <p>来館者数 83,122人 (主催事業15,986人、貸館67,136人)</p> <p>(前年度 72,331人 (主催事業14,788人、貸館57,543人))</p> <p>(3) 人員配置状況</p> <p>館長1人(正規職員1人)、係長3人(正規職員3人(内2人は学芸員))、 係員7人(正規職員5人(内2人は学芸員)、契約社員1人、臨時職員1人)</p> <p>(4) 業務実施状況</p> <p>静岡音楽館条例第2条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。</p> <p>主な事業と入場者数等実績は、以下のとおり。</p>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業内容</th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和4年度</th> </tr> <tr> <th>入場者数</th> <th>目標値</th> <th>入場者数</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公演等事業</td> <td>7,503人</td> <td>7,800人</td> <td>6,634人</td> <td>7,260人</td> </tr> </tbody> </table>		事業内容	令和5年度		令和4年度		入場者数	目標値	入場者数	目標値	公演等事業	7,503人	7,800人	6,634人	7,260人
事業内容	令和5年度		令和4年度												
	入場者数	目標値	入場者数	目標値											
公演等事業	7,503人	7,800人	6,634人	7,260人											

普及振興事業	3,191人	—	2,737人	—
支援育成事業	2,277人	—	2,083人	—
連携事業（3館含む）	5,686人	—	5,116人	—

#### ① 公演等事業

公演等事業（18回）の合計入場者数は7,503人となり、前年度の6,634人（17回）から増加した。公演等事業の核として展開している「コンサートシリーズ」は、日本や韓国の伝統音楽や電子楽器による委嘱作品の初演コンサート等、著名な国内外の演奏家によるホールの音響特性を活かした公演、子どものためのコンサート、毎回完売となるオルガン500円コンサート等、特定のジャンルに偏らない多彩な公演を実施した。

#### ② 普及振興事業

中山間地等の遠方の居住者や特別支援学校、更生施設等の子どもたちにも演奏を提供するアウトリーチ・コンサートを実施し、静岡音楽館へ足を運ぶことが難しい層にも音楽文化に親しんでもらえる機会とした。一方、静岡音楽館のホールならではの本格的な音響特性を広く周知するため、静岡音楽館へ気軽に来館してもらうことを目的とした「AOIのオープン・デイ」も実施した。ピアノ解体ショーなど新しいコンテンツもとりいれて前年度比205.7%の入場者を得ることができた。来館が初めてだったという声もあり、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋がっていると評価できる。

また、「0歳児からのファミリー・コンサート」や「小学校高学年のためのオルガン・コンサート」といった次世代を担う子どもたちの感性を磨く事業も継続して実施している。今後も「市民が音楽を身近に体験することができる機会の提供」を行うとともに、静岡音楽館の認知度向上にもつながる事業として積極的に取り組んでほしい。

#### ③ 支援育成事業

例年実施している「静岡の名手たち」オーディションは、インターネットでも応募できるようにしたところ、多数のWEB申込があり、コロナ禍で低迷した応募数を回復することができた。打楽器部門（5組）、声楽部門（16組）、弦楽器部門（5組）の応募があった。審査の結果、打楽器部門1名、声楽部門2名、弦楽器部門2名、アンサンブル部門1組（2名）が合格し、9月には合格者によるコンサートを行った。

また、市民の発表機会を提供する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、24団体総勢127人の出演、観客数は533人（令和4年度：426人）となり、入場者数はコロナ禍以前の令和元年度517人を超えるところまで回復した。「アマチュア・アンサンブルの日♪」は今年で13回目となり、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを積極的継続的に行うことができていることは評価できる。

#### ④ 他施設との連携事業

静岡科学館及び静岡市美術館と連携して実施する「3館連携事業」は、静岡市美術館「ブルターニュと光と風」展の関連事業として「静岡の名手たち」合格者を起用したミュージアム・コンサートを実施し、チケットが完売する人気事業となった。静岡科学館とも「AOIのオープン・デイ」内における「音の不思議をさぐってみよう」を継続して実施したほか、静岡科学館を会場とした「音楽と赤ちゃんの発達についてのサイエンスカフェ」を実施するなど、各施設の特性を致した連携事業を確実に実施している点が評価できる。

また、市内の小中学校で行った「静岡の名手によるピアノ・ミニ・コンサート（どこでもAOI）」では、児童生徒及び教員も終始真剣に耳を傾けており、音楽館の外へ音

楽文化を届けることができた。

#### ⑤ 維持管理業務

建築基準法において定める建築設備、昇降機及び防火設備の点検を適切に行ったほか、舞台照明設備保守点検業務や音響設備保守点検業務等、ホールの設備が正常に作動するための保守点検を第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行った。

また、空調機や照明器具等の修繕に加え、8階のバーカウンター跡以外に9階でも気兼ねなく水分補給したいとの多くの声を踏まえて9階の一部をフローリングにする修繕も行い、年間合計31件の修繕を実施した。

#### (5) 広報の充実

Facebook、Instagram、X(旧Twitter)といったSNS媒体を活用した広報の充実を図り、令和5年度は前年度比で投稿回数263.0%、フォロワー数は132.1%、「いいね」の数は194.5%に増加した。

#### 【検証・分析等】

令和5年度は前年度に比べて、来館者数、施設利用率ともに増加となったが、指定管理者業務仕様書で定めた施設利用率84.0%は達成できなかった。令和5年度に来館者数は83,122人で、コロナ禍以前の平成28年度から平成30年度までの年間平均来館者数は134,079人だったことから、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の期間を経て、施設利用者の活動が縮小化または活動団体が解散したことで、利用者が減少したことが考えられる。

有効座席に対するコンサート入場者数の割合も、来館者数や施設利用率と同様に増加しており、指定管理者業務仕様書で定めた目標の70%を達成した。要因としては、アンケートの満足度が97.9%と高い水準であることから、特定のジャンルや世代に偏らず幅広い世代や興味関心に対応した優れた音楽芸術を提供したことが考えられる。

公演等事業については、指定管理者が有する人脈やノウハウを活用した多彩で上質な公演を実施した。普及振興事業については、新たなコンテンツを取り入れるとともに、広報の充実も積極的に行い、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋げる取り組みを行った。

支援育成事業については、オーディションの申込方法をインターネットでも行えるようにすることで多くの応募に繋がったり、今年で13回目となる「アマチュア・アンサンブルの日♪」など、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを積極的・継続的に行うことができていることは評価できる。人材育成に関する事業を18事業実施し、プロからアマチュアまで幅広い人材の育成支援に取り組んでいる。

また、駅前3館連携事業や小中学校等他施設とも積極的に連携し、音楽館の外へ音楽文化を届けることができた。

維持管理業務については、利用者の声を踏まえた修繕も実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう、音楽ホールとしての質の高さの維持に努めていることが評価できる。

#### 【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

## 2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

### 【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：割引可能な駐車場の事前周知をお願いしたい。

対応：静岡音楽館窓口でチケットを購入した利用者には以前から案内をしていたが、プレイガイド等で購入した利用者に案内が行き届いていないことがあり、昨年度からホームページにも情報掲示したが、さらに情報が目につきやすいよう、トップの「重要なお知らせ」に掲載した。

### 【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難な要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

また、静岡音楽館では芸術監督制度を採用し、その下に企画会議と市民会議を設けている。外部からの意見や要望を積極的に取り入れる体制を整え、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。これからも施設運営や事業計画に多様な意見を取り入れていってほしい。

### 【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

## 3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

### (1) 利用者満足度調査

各コンサートの入場者へアンケートを実施した。

### 【調査結果】

回答者総数：3,326件、「非常に良い」又は「良い」と回答した人数：3,256人  
満足度 97.8%

### 【検証・分析等】

22回の満足度調査を行ったところ、「非常に良い」又は「良い」と回答した人の割合は平均97.8%という高い評価を得ることができた。満足度が100%となった公演もあり、利用者が満足するような質の高いコンサートが行われていると評価できる。

### 【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

### (2) 市民アンケート

(回答者総数2,468人、当該施設を知っていると回答した人：1,776人)

### 【検証・分析等】

静岡音楽館の認知度は72.0%、前年度(76.9%)と比較しやや減少した。引き続き事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度を高めていくことを期待する。

### 【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

### (3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。

#### 【調査結果】(回答者総数〇人)

各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり。

- ① 職員の応対 78.5% (前年度 76.7%)
- ② 清掃、整理整頓 80.9% (前年度 79.6%)
- ③ 案内表示、掲示板 74.9% (前年度 73.2%)
- ④ 開館日・開館時間 74.1% (前年度 72.2%)
- ⑤ 空調・音響・照明等 75.7% (前年度 74.6%)

#### 【検証・分析等】

前年度と比較すると、「満足」「やや満足」と回答した人の割合が微増している。引き続き、利用者への応対を中心に、より意識を高め取り組んでもらうよう期待する。

#### 【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

## 4 指定管理者の経理(収支)状況の評価

#### 【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

#### 【検証・分析等】

指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおり執行されており良好である。指定管理業務の事業内容をより充実させるため、国等の補助制度を積極的に活用している。

#### 【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

## 5 総括的な評価(課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など)

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

#### 【検証・分析等】

管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。

施設管理については、静岡中央郵便局との合築建物であることから、日常的に情報交換を行いながら良好な関係を保ちつつ、必要な保守点検を行っている。

貸館事業においては、コロナ禍を経たことによる影響が続いているものの、利用状況は回復傾向にあるため、引き続き、施設利用拡大に向けた広報に努めていってほしい。

主催事業は概ね事業計画のとおり実施され、公演等事業ではホールの音響特性を活かした上質な音楽を提供する「コンサートシリーズ」だけでなく、「オルガン¥500コンサート」の回数を増やすなど市民が気軽に音楽を楽しむことができる機会も継続して設けている。普及振興事業や支援育成事業においては、コロナ禍で取りやめていた事業についても再開しており、今後も市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成

のため更なる事業内容の充実を期待する。また、3館連携事業では、各館の特徴を活かした事業を連携して実施することにより内容が濃いものとなるほか、来館者が相互に行き交うことで静岡駅周辺の回遊性を生み、中心市街地の賑わい創出に貢献しているといえる。

引き続き、事業内容の充実や広報手段の工夫に努めていくとともに、静岡音楽館の使命である「広く市民に音楽に触れる機会を継続的に提供」していくことを今後も期待する。

**【評価結果】**

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。